

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	産業関係論（２）		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私が春学期と秋学期に産業関係学科のチューター業務に取り組んだ最大の理由は、今年度は大学の最終学年であり、単に自分の事をするだけでなく、他の人にも立ちたいと思ったからです。

チューター業務の仕事内容や感じたことを、以下にまとめて報告します。

一点目は講義の内容についてです。「産業関係論（１）（２）」では、職場内の「ルール」を研究するという立場から、賃金の国際比較、人事制度の特徴と問題点、工場やオフィスの能率管理（業務能率改善の取り組み）などを、教科書、グループディスカッション、小テストを通じて学んでいくといった内容でした。私自身も二回生の時に受講した講義です。石田先生の「産業関係論（２）」は、教科書の分量も多い上に、何より社会人として働いた経験の無い学生にとっては難解な内容も含む「取っ付きにくい」講義だと思えます。しかし、「職業は人生の背骨である」という言葉もあるほどです。受講生は受身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨んでほしいと思いました。

二点目は受講生の様子についてです。就職や会社内での人事制度などは、私たちのように働いていない学生にとっては「良く分からないけれど当たり前」なのかも知れません。しかし、ここに日本企業の強さの秘密が隠されているのかも知れません。「多くのことを吸収するんだ」という貪欲な気持ちで、何かしらの素朴な疑問を持って欲しいと思います。出席率の上下こそ確かにありましたが、教室の内外で疑問点や気づいた点を話し合う様子や、石田先生に積極的に質問をする様子をあり、受講生が努力している様子を垣間見えたので嬉しかったです。

最後になりますが、私にチューターとしての仕事を任せていただいたことへの感謝の気持ちを伝えたいと思います。貴重な経験を提供していただき、色々と指導して下さった石田先生や事務の皆様、チューターの仲間の皆様、一緒に講義を受けた受講生の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。来年度以降、チューター制度の更なる発展を願っています。

（インフルエンザや卒論の調査のために、１１月中旬以降の講義に数回欠席をしてしまいました。申し訳ありません。）

<今後のチューターまたは先生への提案>

講義への提案です。チューター制度の意義は上回生との交流にあると思いますが、受講生（主に二回生）と講義以外でも交流を行い、講義の疑問点の解消や三年次からのゼミ活動などの話が出来れば有益なのではないかと感じました。もちろん、自主性に任せてみるのが同志社大学の伝統なのだとは思いますが、GPをきっかけに少々やり方を変更してみるのも十分検討に値すると思います。現状では、アルバイトやサークルなどで、個人的に面識のある学生と腰を吸えて会話をする程度に留まっており、何らかの制度化が必要なのではないかと感じています。